

第356回 昭和大学学士会例会（歯学部主催）

日 時 2019年6月29日（土） 10:30～15:50
場 所 昭和大学歯科病院第2臨床講堂
担 当 口腔病態診断科学講座口腔病理学部門,
高齢者歯科学講座,
スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療歯科学部門

特別講演

Dr と DH, 一緒に学ぼう: 歯周病とう蝕の最新バイオロジー

大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
座予防歯科学

天野 敦雄

削って詰めたからう蝕は治った! 歯周ポケットが3ミリになったから歯周病は治った! もしそう思っているなら, それは20世紀の思い込み, う蝕と歯周病が完治することはない. 臨床的治療, すなわち寛解しただけ. しかし, 寛解状態を生涯にわたって維持することはできる. これこそがポスト平成の「防ぎ守る」歯科医療であり, これを可能とするのが最新バイオロジーに基づいたバイオフィルム管理である.

バイオフィルムの管理は, 100%磨きのブラッシング指導でも歯石フリーの完璧なプロフェッショナルケアでもない. 「どうしてう蝕と歯周病は起こるのか」を理解し, バイオフィルムの病原性が高くなるないように科学的なオーダーメイド管理を行うことである. 同時に歯と歯周組織を鍛え, 歯・歯周組織とバイオフィルムとの均衡を維持することである.

まず, 歯肉縁上バイオフィルムと歯肉縁下バイオフィルムはドナルドトランプと習近平くらい違うことをご理解頂く. 次に, う蝕と歯周病の最新病因論をお話する. キーワードは Microbial shift.

ミュータンス菌と砂糖でむし歯ができると思っている方, ジンジャーリス菌が歯周病を起こすと思っている方, アップデートにご足労されたし. 知は力なり. 患者さんの生涯を見据えた口腔健康管理こそ

21世紀の歯科医療と信じて熱弁の予定である.

研究紹介講演1

システマティック・レビューとメタ・アナリシス

昭和大学歯学部全身管理歯科学講座総合内科学部門

安藤 浩一

システマティック・レビューは, 一定の基準や方法論をもとに質の高い臨床研究を調査し, エビデンスを適切に分析・統合を行うことである. メタ・アナリシスは, 過去に行われた複数の研究結果を統合するための統計解析である. その歴史は1904年に Pearson が腸チフスに対するワクチンについて, それまで試されたデータを再検討し, 統合を試みたことに始まるとされる. 心理学者 Glass (1976) は, 初めて meta-analysis という用語を提唱し, Cooper and Hedges (1994) は, この分野の集大成として The Handbook of Research Synthesis をまとめた. Yusuf et al. (1985) らによる心筋梗塞後のβブロッカーの長期投与に関するメタ・アナリシスは, 臨床試験の評価にメタ・アナリシスが急速に広まる契機となった. 初期の時代の方法論においては, 研究間の差に偶然誤差を仮定した母数モデルが中心であったが, EBMの進展に伴い, 近年では, 研究間差の無視できない異質性をモデル化した変量モデル, Bayesian モデルが中心となってきた. さらに, 3種以上の薬剤を比較するネットワーク・メタアナリシスなどの新しい統計モデルも登場してきている.

本講演では, これら種々の統計モデル用いたメタ・アナリシスの特色や, その可能性について, 自験例をベースに紹介する.

研究紹介講演 2

パラファンクションに関する研究

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎
関節症治療学部門
菅沼 岳史

顎関節症は、解剖因子、咬合因子、外傷因子、精神的因子、行動因子などが組み合わさり、ある一定の閾値を越えた場合に発症するとされています。これらのうちの行動因子に含まれるのが、パラファンクションである睡眠時ブラキシズムと上下歯列接触癖（覚醒時ブラキシズム）です。

本講演では、これまでに携わってきた以下の研究についてご紹介します。

1. 睡眠時ブラキシズムと覚醒時ブラキシズムが歯根膜感覚に及ぼす影響

ブラキシズムがあると歯根膜感覚が鋭敏化する。

2. 睡眠時ブラキシズム患者における遺伝子多型の解析

セロトニン 2A 受容体遺伝子とセロトニントランスポーター遺伝子の遺伝子多型が関与する。

3. 睡眠時ブラキシズムの筋活動様相と臨床徴候との関連性

Grinding の筋活動様相が歯ぎしり音と咬耗に関連し、Clenching の筋活動様相が起床時の筋疲労感に関連する。

4. 睡眠時ブラキシズムに対するスプリントの力学的効果

スプリントによってブラキシズムの咬合力は歯列全体に分配され、顎関節や咀嚼筋への不均衡な負荷が軽減される。

5. 睡眠時ブラキシズムに対する薬物療法

降圧剤であるクロニジンはブラキシズムの抑制効果があるが、その効果には個人差がある。

6. 振動刺激による睡眠時ブラキシズムの抑制

スプリントに付与した装置でブラキシズムを検知して振動刺激を与えるとブラキシズムの活動が抑制される。

一般演題

1. 松果体ホルモンメラトニンによる自然免疫系を介した炎症制御機構の解明

昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻地域連携歯科学
菊池真理子^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
地域連携歯科学部門

²⁾ 昭和大学歯学部口腔微生物学講座

³⁾ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
障害者歯科学部門

嘉手納未季^{2,3)}、桑田 啓貴²⁾

丸岡 靖史¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

2. (取り下げ)

3. 骨関連遺伝子改変メダカを用いた、骨代謝・骨折修復プロセスにおけるグルココルチコイドの機能解析

昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻歯科薬理学
畔津 佑季^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学歯学部歯科薬理学講座

²⁾ 昭和大学薬理科学研究センター

³⁾ 昭和大学医学部整形外科学講座

茶谷 昌宏^{1,2)}、百々 悠介^{2,3)}

唐川亜希子^{1,2)}、坂井 信裕^{1,2)}

根岸(古賀)貴子^{1,2)}、高見 正道^{1,2)}

【発表内容掲載論文】

Biomed Pharmacother. 2019;118:109101.

4. 唾液腺腫瘍における Tumor Protein D52
ファミリーの発現様式の検索

昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻口腔外科学
八十 篤聡

昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学
部門

椋代 義樹, 鎌谷 宇明
代田 達夫

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

5. インプラント補綴治療法の違いが上下無
歯顎患者の口腔関連 QoL に与える影響

昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻歯科補綴学
楠本友里子

昭和大学歯学部歯科補綴学講座
樋口 大輔, 松本 貴志
三田 稔, 原 真央子
武川 佳世, 馬場 一美

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

6. 重度要介護高齢者における簡易な摂食嚥
下機能評価と死亡との関連

昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻地域連携歯科学
星野 大地¹⁾

¹⁾ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
地域連携歯科学部門

²⁾ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
口腔衛生学部門

マイヤース三恵¹⁾, 弘中 祥司²⁾
丸岡 靖史¹⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

7. 昭和大学頭頸部腫瘍センターにおける上
下顎歯肉扁平上皮癌症例の臨床的検討

¹⁾ 昭和大学頭頸部腫瘍センター

²⁾ 昭和大学歯学部口腔外科学講座口腔腫瘍外科学
部門

³⁾ 昭和大学医学部耳鼻咽喉科学講座

守谷 崇^{1,2)}, 齊藤 芳郎^{1,2)}

倉澤 侑也^{1,2)}, 江川 峻哉^{1,2,3)}

櫛橋 幸民^{1,2,3)}, 池田賢一郎^{1,2,3)}

勝田 秀行^{1,2,3)}, 嶋根 俊和^{1,2,3)}

【はじめに】歯肉扁平上皮癌は口腔では舌に次いで発生頻度が高く、当センターにおいてもしばしば遭遇する疾患である。今回われわれは、昭和大学頭頸部腫瘍センターで入院治療を行った上下顎歯肉扁平上皮癌症例の臨床的検討を行った。

【対象と方法】当センターにて2014年10月から2018年12月までに治療を行った44例（上顎21例 下顎23例）に対し、「TNM分類 Stage分類」「転移リンパ節部位」「再発の有無」等について検討した。

【結果】性別は男性が19例（上顎5例 下顎14例）、女性が25例（上顎16例 下顎9例）、年齢分布は上顎が51～88歳（中央値71歳）、下顎が36～84歳（中央値72歳）であった。上顎のT分類ではT1は7例（33%）、T2は4例（19%）、T4は9例（43%）であった。下顎ではT1は6例（26%）、T2は9例（13%）、T3は5例の（22%）、T4は4例（17%）であった。上顎のStage分類ではStage Iは4例（19%）、Stage IIは4例（19%）、Stage IIIは0例、Stage IVAは10例（48%）、Stage IVBは3例（14%）であった。下顎ではStage Iは4例（17%）、Stage IIは7例（30%）、Stage IIIは5例（22%）、Stage IVAは4例（17%）、Stage IVBは3例（13%）であった。転移リンパ節部位は上下顎ともにLevel I、Level IIのみであった。再発転移症例は上顎が4例（19%）で内訳は後発頸部リンパ節転移4例、下顎が5例（21%）で内訳は後発頸部リンパ節転移3例と局所再発2例であった。以上の結果に対し、文献的考察を行いさらに再発・転移症例に対し詳しく検討を行ったので報告する。

8. 大腸 ESD 困難症例に対する工夫と治療成績の検討

昭和大学大学院医学研究科内科系内科学（消化器内科学分野）専攻

石垣 智之

昭和大学横浜市北部病院消化器センター

工藤 進英, 林 武雅
桜井 達也, 矢川 裕介
一政 克朗, 豊嶋 直也
三澤 将史, 森 悠一
工藤 豊樹, 久行 友和
若村 邦彦, 石田 文生

【発表内容掲載論文】

日大腸検会誌, 2018;35:27-38.

9. 20 mm 以上 30 mm 未満の大腸腫瘍における EMR と ESD の治療成績の検討

昭和大学大学院医学研究科内科系内科学（消化器内科学分野）専攻

櫻井 達也

昭和大学横浜市北部病院消化器センター

工藤 進英, 林 武雅
漆原 史彦, 前田 康晴
石垣 智之, 中村 大樹
矢川 裕介, 豊嶋 直也
三澤 将史, 森 悠一
工藤 豊樹, 若村 邦彦
石田 文生

【発表内容掲載論文】

日大腸検会誌, 2017;34:22-30.

10. CAD/CAM レジンブロック被着面のコンタミネーションに対する化学的前処理の効果

昭和大学歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門

菅井琳太郎, 小林 幹宏
新妻由衣子, 池谷 侑紀
水上 裕敬, 真鍋 厚史

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

11. 歯科用コーンビーム CT を用いたデジタル合成画像の評価—研究用模型との 3D 合成画像

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門

黒田 沙, 関 健次
荒木 和之

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

12. 発達障害児の食行動に関する研究—小児における口腔機能評価の検討—

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

石崎 晶子, 増田絵美奈
村上 浩史, 内海 明美
石川健太郎, 弘中 祥司

【目的】本研究の目的は発達障害児における食行動の問題解決方法を探ることである。発達障害児では偏食などの食行動の問題だけでなく、咬まないなど口腔機能に関する問題も多い。しかし、小児における口腔機能の定量評価に関する報告は少ない。本研究ではまず、健康小児における口腔機能評価について検討を行い、関連因子について考察した。

【方法】2歳から7歳までの健康小児7名を対象とした。身長、体重、下腿周囲長、握力、咀嚼能力（キシリトール咀嚼判定ガム、コニカミノルタ社製色素解析用システム）、口唇閉鎖力（りっぷるくん）、咬合力、舌圧（JMS 舌圧測定器）、鼻腔通気度（NR6 EXECUTIVE）の測定と口腔内診査を行った。また保護者に食行動に関するアンケート調査を実施した。

【結果】増齢に伴い、舌圧、最大咬合力、口唇閉鎖力、咀嚼能力は増加する傾向にあった。また、握力が大きくなるにつれ、舌圧、最大咬合力、口唇閉鎖力、咀嚼能力は増加する傾向にあった。鼻腔抵抗値は年齢との関連はあまり見られなかった。鼻疾患がある児でない児に比べ、鼻腔抵抗値は大きい傾向にあった。

【考察】健康小児においては、比較的低年齢でも口腔機能の評価は可能であった。増齢に伴い、口腔

機能は発達していると示唆された。しかし鼻腔通気度については、年齢との関連は見られなかった。鼻腔通気度測定が不可能であった児もいたため、今後測定方法に関して検討が必要である。